

おじいさんはいつの間にか、  
足をとんとんふみならし、  
おどりながら、  
ほらあながら、出てきました。

こぶ  
どんどこどん  
ぶんぶら  
どんどこどん

こんどは、おにたちがびっくり。  
しかし、おじいさんの  
歌とおどりのおもしろさに、  
手をたたいてよろこびました。  
それから、おじいさんと  
おにたちは、いつしょになつて、  
ひとつぼんじゅうおどりました。



空が明るくなると、  
おには、いいました。  
「ああ、楽しかった。  
じいさんや、夜になつたら、  
またこいよ。」

こないといけないから、  
なにかあずかつておくぞ。  
よし、これだ。」

おには、おじいさんの  
ほっぺのこぶを、ほこんと、  
とつてしましました。

じやまだつたこぶが  
きれいになくなっています。

おじいさんはよろこんで、  
家にかえりました。



# 京都のかえると大阪のかえる

北村すみよ・文  
やすまいるママキ・絵

むかし、京都に一びきのかえるがいました。

ある日のこと、

だが、となりの大阪も、

にぎやかなええところらしいのね。

よし、大阪へ出かけてみるか。」

京都のかえるは、ゲロゲロ、べつたら

大阪を目指して、たびに出ました。



同じころ、

大阪にも一びきのかえるがいました。

「わいの大阪は、にぎやかなところじや。

だが、となりの京都は、

うんときれいなところらしいなあ。

どれ、京都へ出かけるかいな。」

大阪のかえるも、ケロケロ、べつたら

京都を目指して、たびに出ました。



同じころ、

大阪にも一びきのかえるがいました。

「わいの大阪は、にぎやかなところじや。

だが、となりの京都は、

うんときれいなところらしいなあ。

どれ、京都へ出かけるかいな。」

大阪のかえるも、ケロケロ、べつたら

京都を目指して、たびに出ました。



おしようさんは、  
しばらく考えていました。  
「では、おきょうのめでたいことば、  
『じゅげむ』はどうじや。」  
だんなさんが首をかしげると、  
「めでたいことがかぎりない、  
つまり、しないといういみじや。」  
「そりや、いい。ほかにありますかい？」  
「『五こうのすり切れ』はどうじや。  
神につかえる天女が、  
こちらのせかいの大きな岩を、  
すり切れてなくなるまでなでることを、  
一こうという。つまり、五こうとは、  
長いことをいうのじや。」  
「それも、いい。ほかには？」



「ほう。長生きする名前じやな。  
つるは、千年生きるというめでたい鳥じや。  
つるたろうは、どうじや。」  
すると、だんなさんは、いいました。  
「つるのようにやせてはこまるし、  
千年より長生きがいいなあ。」  
「千年でみじかいなら、かめは万年じや。」  
「かめは頭をつつくと、  
首をひっこめるから、出世できねえ。」  
「それなら、はをおとさぬ、  
まつが、めでたいぞ。」  
「いや、まつはうえかえると、  
すぐかれちまう。」  
「竹やうめは、どうじや。」  
「竹の子は、頭を出すと、すぐぬかれるし、  
うめは、たるの中におしこめられて、  
うめぼしにされちまう。」

# うりこひめ

大石 真・文　ふじいかずえ・絵

むかし、おじいさんと

おばあさんがいました。

ある日、おばあさんが

川でせんたくをしていると、

大きなうりがながれてきました。

「なんておいしそうなうりだろう。」

ほうちょうで切つてみると、

中から、かわいい女の子が出てきました。

おじいさんは、

その子に、うりこひめと名前をつけて、

かわいがつてそだてました。



だんだん大きくなると、  
うりこひめは、ますます

うつくしいむすめになりました。

ちんじゅさまのおまつりの日、

おじいさんとおばあさんは、

「今年はうりこひめをかごにのせて、  
おまつりにつれていこう。」

といつて、町へかごを買いに  
出かけました。

出かける前、うりこひめにいました。  
「るすの間に、あまんじやくがきても、  
けつして戸を開けてはいけないよ。」

「はい、だいじょうぶです。」





そのとちゅう、道ばたに  
大きなかきの木があつて、  
おいしそうなみが、ゆれています。  
馬引きが、そのかきのみを  
とろうとして、石をなげていました。

ものすごい音といつしょに、  
おばあさんは石うすごとふきとばされ、  
馬ごやの上におちました。  
これを見ていたむすこは、  
おどろくやら、はらをたてるやら。  
「いくらなんでも、親を、  
へでふきとぼすようなものは、  
よめにできない。出でていってもらおう。」  
むすこは、およめさんをつけ、  
およめさんの親のところへ、  
おくつていきました。



かべが、そういうおわらぬうちに、

ねずみの父さんと母さんは、

むすめのよめいりのしたくをはじめました。

そんなわけで、

ねずみのむすめのよめいり先は、

ねずみのわかもののところになりました。

めでたし、めでたし。

